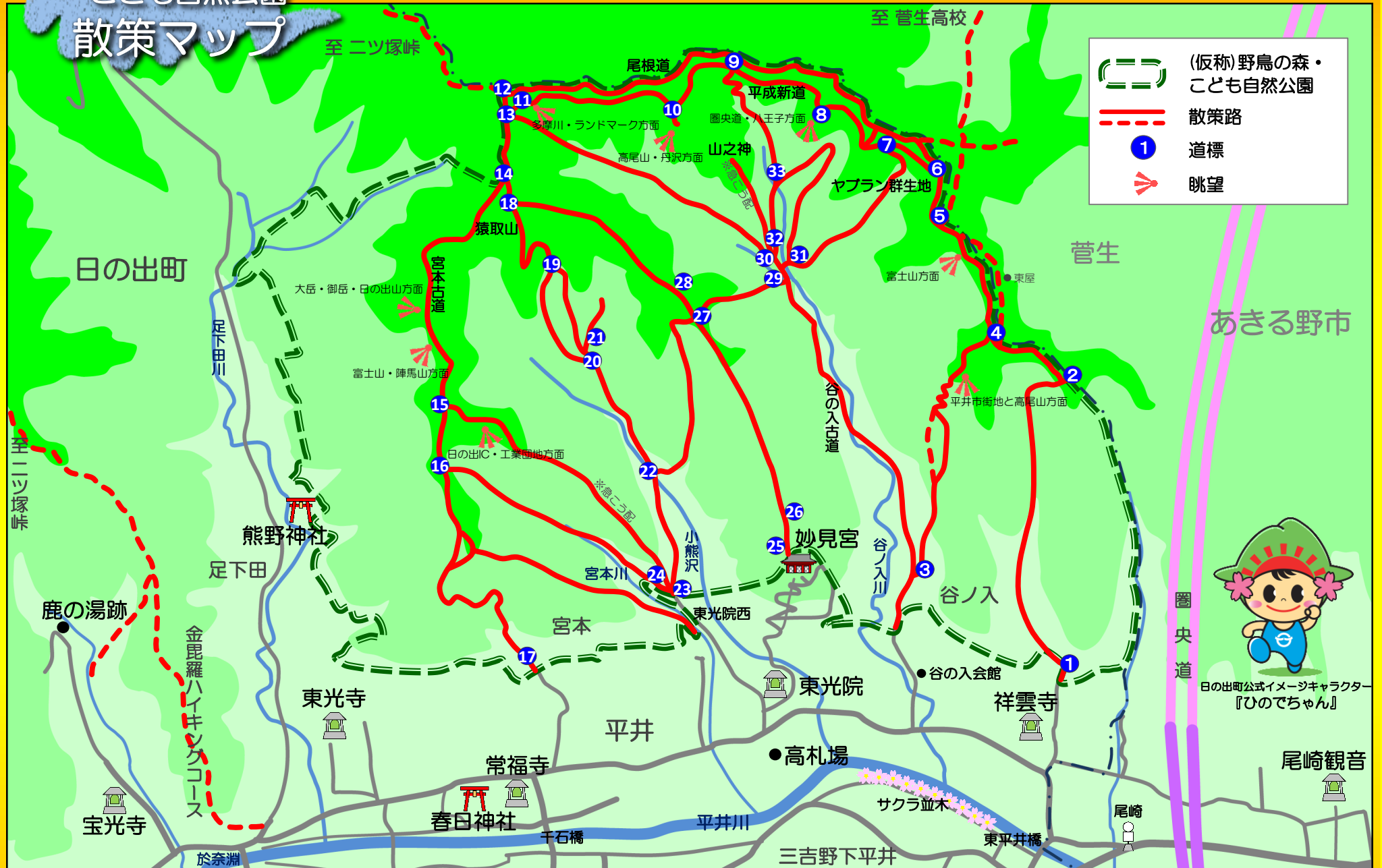






(仮称)野鳥の森
こども自然公園
散策マップ



-  (仮称)野鳥の森・こども自然公園
-  散策路
-  道標
-  眺望



(仮称)野鳥の森・こども自然公園 周辺のみどころ



春日神社

平井宮本地区にある春日神社では、毎年秋に大きな祭礼が執り行われます。そのお祭りは毎年9月末頃に平井の道場にある八幡神社と同じ日に行われ、町で最も賑やかなお祭りで「平井のおまつり」として親しまれています。秋の祭礼には国の指定文化財である「鳳凰の舞」が奉納されるほか、八幡神社と合わせて5基の山車が繰出し競合を行います。加美町と志茂町の山車と重松流祭り囃子は町の指定文化財になっています。日本武尊が蝦夷遠征のときに立ち寄ったとの伝承もあります。



鳳凰の舞

平井宮本地区にある春日神社では毎年9月29日に近い土日の祭礼で国の重要無形民俗文化財に指定されている鳳凰の舞が奉納されます。鳳凰の舞は江戸の要素を含む「奴の舞」と、上方の要素を含む「鳳凰の舞」の二庭で構成されています。全国的にもあまり類例のない貴重な民俗芸能で、地元の人々の手により大切に伝承されています。元々は雨乞いの舞だったのですが悪疫退散の舞としても奉納されているそうです。



宝光寺

平井谷戸地区にある寶光寺は、七堂伽藍の整った禅宗お寺です。その歴史は古く、前身となる天台宗菩提院には治承4年(1180)に、源頼朝が関東攻めの際に宿営したと伝えられています。文明10年(1478)に山梨県廣蔵院の以船文済により曹洞宗に改宗され、現在の寶光寺になりました。江戸から明治期にかけて度々の火災に遭っており、明治15年(1882)の大火野焼けでは、総門を除く諸堂を焼失してしまいました。現在の本堂は昭和51年に建てられたものになります。



鹿の湯跡

平井谷戸地区にある宝光寺の境内には、かつては多摩七湯の一つに数えられた鹿の湯の跡があります。現在はその面影を残すだけですが、かつては湯屋が建ち、多くの湯治客で賑わったと言われていました。



常福寺

平井宮本地区にある常福寺は、安土桃山時代、天正年間(1573~1592)の創建といわれています。真言宗のお寺で、ご本尊には木造不動明王を中尊とする木造不動三尊像が奉られています。また、多摩新四国八十八ヶ所第五十六番の霊場となっています。境内には陶芸家星野亨斎師による紫香樂焼の百八羅漢群像が点在し、参拝や札所巡りの人々を迎えてくれます。



宝篋印塔

平井宮本地区の常福寺にある宝篋印塔はお経を収めた仏塔で、拝礼供養すればあらゆる罪科も消滅し極楽往生間違いなしと言われていました。塔身は二重に重ねられていて、全高は5mあり、町の文化財に指定されています。



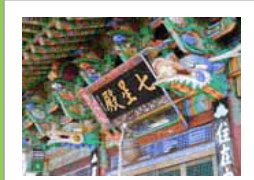
東光院

平井谷ノ入地区にある東光院は、承平元年(931)に鎮守である妙見宮の居館を天台宗の接待寺としたのが始まりです。その後、無住となり荒廃していた寺を慶長10年(1605)に伝室呑的の和尚が改宗し、曹洞宗の東光院になりました。裏手の妙見山はツツジの名所です。梵鐘は元禄17年(1704)の鑄造で、町の文化財に指定されています。



東光院の梵鐘

平井谷ノ入地区にある東光院の梵鐘は元禄17年(1704)年に永瀬権右門尉勝之により造られたもので、菩薩像の鑄出に特徴があります。太平洋戦争の末期、不足する金属を補うために軍部は寺院に対し梵鐘等の金属の供出を命じましたが、幸いにもそれを免れ、現在では町の文化財に指定されています。



妙見宮

平井谷ノ入地区にある東光院境内の小高い丘の上には関東でも珍しい韓国風の極彩色の七重殿が建っています。現在の建物は昭和62年に韓国の資材と職人によって建てられたものですが、その歴史は古く、天武天皇の時代まで溯ります。常に北の空の中心に位置する北極星を、運命をつかさど妙見菩薩として祀っています。毎年5月3日には恒例の「妙見まつり」が催され、優雅な韓国舞踊や国内では珍しい韓国舞踊農楽隊などが披露されます。



高札場

平井谷ノ入地区の東光院の近くにある梅林の隅にある幅約3m、奥行き約1.8m、高さ約1.4mの玉石積みは明治初年まで高札場(現在の役場掲示場のようなもの)として使われていました。ここに高札場があるということは、かつてはここに本道が通っていたという事を意味しています。